

卒業論文要旨

2014 高知豪雨が高知県物部川の濁水長期化問題へ与える影響についての評価

1150214 河野将大

Evaluation of the influence of 2014 Kochi heavy rain disaster on the long-term turbid water quality problem in the Monobe river basin

Masahiro KAWANO

ダム貯水池における堆積土砂と濁水長期化問題は、近年の気候変動の影響を受けて顕在化しており、高知県物部川においても、昭和 30 年代に建設された永瀬・吉野・杉田ダムの連続する各貯水池に土砂に加えて流れ込んだ濁水により水質汚濁問題が長期化している。農業用用水の利用や河川の生態環境に深刻な影響を及ぼしており、県レベルでの原因解明や対策に苦慮している。

本論の目的は長期的な濁水発生メカニズムを解明するための主要因と考えられる降雨と濁度の相関性を評価することである。今後の濁水対策に発展する基礎研究の一環を構成するものとして検討している。

物部川においても降雨と濁度には相関があり、降雨は濁度を発生させる主な要因であることが確認できた。昨年（2014 年）は 2014 高知豪雨における連続する台風の影響を受け、8 月の月降雨量が過去 100 年間の中でも最大となった。その結果、8 月に降雨、濁度共に集中して高まった。また、雨の降り方と濁度の下がり方が濁水長期化発生メカニズムに大きく影響を与えているということが分かった。降雨強度に加えて時系列的な雨の振り方が濁水長期化問題を引き起こす大きな要因となっている。

今後、地球温暖化の影響を受け、2014 高知豪雨のような局地的豪雨とともに、濁水長期化問題もさらに頻発化していく可能性が高くなっていくと予測することができる。